Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-11-28

丹波市在住フィリピン人女性の地位向上へ向けた提言 : 兵庫県丹波市のニューカマー外国人生活実態聞き取り調査より

足立, 美優 ; 足立, 唯 ; 上田, 奈知 ; 岡林, 美紀 ; 木戸口, 飾 ; 谷垣, 菜和佳 ; 谷垣, りさ子 ; 谷川, 夏菜子 ; 原, 香鈴 ; 廣瀬, 智子 ; 平原, 藍子·

(Citation)
兵庫地理,61:75-83

(Issue Date)
2016

(Resource Type)
journal article

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/90005221

兵庫地理 61（2016）75-83

丹波市在住フィリピン人女性の地位向上へ向けた提言

―兵庫県丹波市のニューカマー外国人生活実態聞き取り調査より―

兵庫県立柏原高等学校インターアクト部
足立　美優・足立　唯・上田　奈知・岡林　美紀・木戸口　飾・谷垣　菜和佳・
谷垣　りさ子・谷川　夏菜子・原　香鈴・廣瀬　智子・平原　藍子・待場　紗和・
山口　采慧子・余田　まりな　　顧　問　久保　哲成・土井　敬子

１．ニューカマー外国人とは

（1）　ニューカマー外国人の定義

ニューカマー（またはニューカマーズ）とは、1980年代以降に日本へ渡り長期滞在する外国人を指す。

ニューカマーに対して、オールドカマーとは、第2次世界大戦前や大戦後に来日し長期滞在を始めた在日韓国・朝鮮人や在日台湾人、中国人を指す。

この人たちと区別するための概念としてニューカマーという概念が出てきた。ニューカマー外国人は、韓国系、朝鮮系だけではなく、中国系（華人ニューカマー）、東南アジア（フィリピン、ベトナム）や日系ブラジル人など南米系移民も含む。

（２）ニューカマー外国人の増加の理由

外国人登録制度の登録数を見てみると、1959年（昭和34）に67万人、1984年（昭和59）に84万人とその伸びは緩やかであったが、1984年以降は1990年（平成2）に100万人を超え、2005年（平成17）には200万人を超すというような急激な増加がみられる。

この数字の変化から、2005年（平成17）には、ニューカマー外国人が、在日外国人の7割近くを占めるようになっている現状が理解できる。

ニューカマー外国人の増加の理由は、二つの方向で説明できる。第一段階は、東・東南アジア諸国と日本との関係が良好になってきたことによる。

1972年（昭和47）の日中国交正常化、1979年（昭和54）の台湾における海外出国自由化により、中国系ニューカマーが増加の兆しを見せ始めた。1983年（昭和58）の中曽根内閣による「21世紀への留学生政策に関する提言」に始まるいわゆる「留学生10万人計画」により留学生が急増したことも大きい。

今一つは、1990年代に入り、バブル崩壊を迎えて多くの中小企業はコスト削減、安価な労働力確保のために外国人労働者に注目するようになった。1990年の出入国管理及び難民認定法改正による在留資格の再編、1993年創設の技能実習制度の導入により、外国人研修生の滞在年数を短期から長期に変更することが可能になった。

2007年（平成18年）末時点での外国人登録者数が10万人を超える都府県は、多い順に東京都、愛知県、大阪府、神奈川県、埼玉県、千葉県、兵庫県、静岡県といずれも工業地帯に位置しており、産業構造とも深く結びついていることがわかる

２．在日フィリピン人とは

（1）フィリピン人の海外労働

フィリピンの現在の総人口は１億人を超えている。アジアでは、中国、インド、インドネシア、パキスタン、バングラデシュ、日本に次いで１億人以上の人口を有する人口大国である。

最近は工業生産も増え、輸出１位はＩＴ部品を中心とする機械類である。マレーシア・タイ・インドネシアとともにＡＳＥＡＮ４の１国として中進国と

呼ばれるようになった。

しかし、まだまだ富の分配は不平等で、1 日 2 ドル未満で生活する貧困層は、国民人口の 40%、4000 万人近くいる。

中進国への経済成長が順調に進んでいく中、貧困層が多く存在する理由は、人口増加率が高いことに起因する。人口増加率が高く、雇用機会の創出が間に合っていなく、失業率も高い状態が続いているためである。

人口増加率が高い原因は、フィリピンの宗教文化に求めることができる。フィリピンは、アメリカ合衆国が旧宗主国であるが、アメリカ合衆国の支配前には、スペインの植民地としての歴史がある。その歴史は 1529 年に始まり、1898 年米西戦争でアメリカ合衆国に敗れたスペインが、フィリピンの宗主権をアメリカに譲り渡すまでの、約 270 年間である。その期間に住民のほとんどがカトリック教に改宗していった。現在、国民の 90%以上がカトリック教徒である。このカトリック教は人工的な産児制限を嫌うため、人口増加率が高くなる。

人口増加率の高さがもたらす、失業率の高さゆえ、海外への移民、海外への出稼ぎ労働が多い国となった。1980 年代以前の最大の移民先は、元植民地宗主国であるアメリカ合衆国で、200 万人が移民していた。

またフィリピン人の海外への出稼ぎ労働が盛んになったのは、1970 年代マルコス政権下である。中東における急激な労働力不足に答える形で、1969 年に 3700 人が国家政策として送り出された。1983 年には 50 万人を超えるフィリピン人が建設やサービス産業を中心に就労した。そのうち 20 万人はサウジアラビアであった。1980 年代後半からは、経済成長が著しいシンガポール、香港、台湾がフィリピン人女性を家事労働者に特化して雇用した。今日では、180 か国・地域で、建築・土木設計士、ホテル支配人から教師、コンピュータプログラマーにいたる多様な職種に 800 万人のフィリピン人が祖国（1999 年 8000 万人）を離れて働いている。この 800 万人の海外出稼ぎフィリピン人の 6 割が女性である。

（2）在日フィリピン人人口増加について

在日外国人人口のうち在日フィリピン人人口は、1 位中国人、2 位韓国・朝鮮人、3 位ブラジル人についで、4 位である。

2007 年に在日フィリピン人は 20 万人を突破した。現在では、約 19 万人が正規の在留資格所有のフィリピン人、それに加えてオーバースティのフィリピン人 3～4 万人、合計 22 万人が日本在住していると思われる。

在日フィリピン人が増加する契機となったのは、1980 年代から始まる日本への出稼ぎ労働であった。

1980 年代、日本人男性のフィリピンでの買春ツアーが大きく報道されるようになり、各国からも批判を浴び、同種の観光ツアーが下火になった。それを受け、フィリピン人女性を日本国内のパブやスナックで働かせるエージェントが現れ、多数のフィリピン人エンターテナーを日本に送り込むようになった。

入管の 1999 年の統計を見ると、フィリピン人の日本への新規入国者 84,767 人のうち 45,594 人が興行ビザで入国したフィリピン人女性である。

フィリピンパブ勤務。３～６か月の日本滞在。彼女らはほとんど外国人登録しない。留学・就学で来ているのは、1999 年留学生 186 人、就学 58 人が新規に来日しているのみである。このことから、来日フィリピン人の目的の偏りが極めて大きいことがわかる。

1990 年代末には日本には約 9 万 4 千人のフィリピンからの出稼ぎ労働者がおり、日本は、サウジアラビア、香港についで 3 位であり、送金額も 3 位であった。日本への出稼ぎの 9 割が女性であり、日本はフィリピン女性受け入れ 1 位国となった。

このような、女性中心の日本への出稼ぎ労働に大きな変化が現れたのは、「2005 年ショック」と呼ばれる法務省令の改正である。フィリピン女性の日本でのエンターテナーとしての出稼ぎ労働が、海外から「人身売買」と批判されるようになり、興行労働へのビザ発給審査が厳格化されたのである。2004 年のビザ発行は 50691 人、2009 年ではわずかに

7465 人となった。このビザ発行が厳格化されるたことを受けて、2006 年には 1 万 2150 人の日比カップルが誕生した。駆け込み結婚である。日本人男性と結婚することで日本での在住資格を得ようとしたのである。2009 年の日本人とフィリピン人の結婚は 5911 件と減少した。

（3）在日フィリピン人人口の特徴ついて

在日フィリピン人の人口的特徴は、第一に女性が多いこと。外国人登録の８割が女性である。第二に、第二世代の存在、つまり子供の存在である。毎年 5000 人の日比カップルの子供が生まれている。外国人を母親にもつ子供の 3 人に 1 人がフィリピン人が母親である。この理由は、以下のことから理解できる。

日本人とフィリピン人の結婚件数は、中国に次いで 2 位であり、1990 年以降、毎年 5000 組以上を記録し続け、そのうちの 98%が日本男性とフィリピン人女性の婚姻である。そしてその多くが日本のフィリピンパブでの出会いと推測される。

厚生労働省がまとめた、2000 年の人口動態統計でも、夫が日本人で妻がフィリピン人の婚姻数が 7519 件であるのに対して、夫がフィリピン人で妻が日本人の結婚は 109 件と、実に７５対１。1980 年代以降、日本では男性のほうが国際結婚するケースが多いが、これだけ極端な数字は対フィリピンだけである。日本での在留資格を持つフィリピン人の 70%が「日本人の配偶者等」で在留資格を持つ、つまり日本人と国際結婚したフィリピン人だと推量される。

３．丹波市在住のフィリピン人への聞き取り調査の結果について

(1) 丹波市在住外国人の人口について

丹波市在住外国人の総数は 646 人（2014 年（平成 26 年）現在）である。丹波市の総人口が 6 万 7705 人であることから考えると、丹波市民の約 100 人に 1 人が外国人であることが分かる。兵庫県の中東部に位置する小地方都市としては、多くの外国人が生



活していることが分かる。

1 位の中国人 297 人（全体の 46%）、2 位のブラジル人 101 人（16%）、3 位のフィリピン人 90 人（14%）、韓国・朝鮮人 79 人（12%）、ベトナム人 30 人（５%）となっている。

1，2，3、5 位の中国、ブラジル、フィリピン、ベトナムの人は、所謂、ニューカマー外国人と呼ばれ、1980 年代以降に日本に移住してきた外国人である

オールドカマー外国人と呼ばれる韓国・朝鮮人の占める割合が、4 位で 79 人(12%)と意外と少ない。

来日理由はさまざまであるが、概ね次のようになっている。中国人の場合、工場研修生および結婚。ブラジル人の場合、工場勤務。フィリピン人の場合、結婚。ベトナム人の場合、工場研修生となっている。

今回の生活実態聞き取り調査は、丹波市で第３番目の外国人人口のフィリピン人の方々を対象として行った。

(2) 生活実態聞き取り調査の結果

今回（2015 年（平成 27 年）１月実施）の聞き取り調査は、日本人男性と結婚された３人のフィリピン女性とそのうちの１人の息子(23 歳)を対象に行った。

ア　家族構成について

聞取り対象者	性別	年齢	滞日年数	家族構成
A	女子	50歳	33年	夫、子ども2人（23歳、15歳）
B	男子	23歳	15年	父、母、弟(15歳)　＊Aさんの子ども
C	女子	？	11年	夫、子ども2人（12歳、9歳）、夫の母
D	女子	？	8年	夫、子ども2人（兄、妹）

＊ A さんは滞日年数が 33 年を超えて大変長い。B さんは A さんの息子で幼くして来日した。

C さんと D さんは来日 10 年程度であり、この日本で暮らしている年数の違いが、A・B さん親子との日本での生活へのかかわり方に大きな違いを生んでくる。

イ　来日の理由について

聞取り対象者	性別	来日理由は何ですか？
A	女子	エンタティナーとして来日、その後、日本人男性と結婚したため。
B	男子	母の日本人との結婚により来日した。
C	女子	日本人の男性と結婚したため。
D	女子	日本人の男性と結婚したため。

＊A さん、C さん、D さんともに日本人男性との結婚を機に来日し、日本で暮らすようになった。
B さんはA さんの子どもとして来日し、暮らすようになった。

ウ　日本語能力について

聞取り対象者	性別	日本語能力
A	女子	コミュニケーションに問題ない
B	男子	コミュニケーションに問題ない
C	女子	日常会話程度
D	女子	日常会話程度

＊　A さん、B さんの日本語能力は高く、滞日年数の少ないC さん、D さんは日常会話ならこなせる程度である。B さんは県立普通科高校を卒業しているので、日本人とほぼ変わらない日本語能力があると考えられる。

エ　平日の過ごし方について

聞取り対象者	性別	どのように平日を過ごしていますか？
A	女子	段ボールを作る工場に勤務している。 家事にも追われている。
B	男子	お弁当屋や工場に勤務している。
C	女子	縫製工場でミシンを使っている。
D	女子	火・水曜日は日本語教室で日本語の勉強している。 時々、子どもを病院に連れて行くことがある。

＊　A さんと B さん親子と C さんは、平日は仕事に出ているが、D さんは、子どもがまだ小学生なこともあり、恒常的な勤めには出ていない。

オ　休日の過ごし方について

聞取り対象者	性別	どのように休日を過ごしていますか？
A	女子	友達とコーヒーを飲んだり、買い物に行く。 家で家事(掃除)をして過ごすことが多い。農業も手伝う。
B	男子	家で過ごすことが多い。 家で映画を見たり、音楽を聴いたりしている。 高校時代の同級生と遊ぶ。
C	女子	家事に追われている。
D	女子	家事が忙しい。

＊　A さんは子どもが大きくなったので、時間的にゆとりも出てき、日本人との関係も形成されていっている様子が伺える。C さん、D さんはまだ子どもも小学生であり、日本人との関係もまだ充分に成熟していないので外に出ることが少ないようだ。

カ　現在の仕事について

聞取り対象者	性別	どんな仕事をしていますか？
A	女子	紙製品製造工場に勤務し、段ボールの箱や紙袋を作っている。
B	男子	工場に勤務している。 弁当屋さんでアルバイトもしている。
C	女子	縫製工場でミシンを使っている。
D	女子	毎日行く仕事にはついていない。 時々、友人のスナックを手伝っている。

＊　漢字が読めないこともあり、製造業についている場合が多い。

キ　料理について

聞取り対象者	性別	家庭ではどんな料理を作って、食べていますか？
A	女子	日本食が最初口に合わなかったり、箸をうまく使えなかった。
B	男子	フィリピン料理は日本料理より脂っこい。 フィリピンではファーストフードが人気で、日本と違うメニューがある。 お菓子は日本に比べて甘い。 フィリピン料理は、豚肉料理が多く、牛肉料理は少ない。
C	女子	フィリピン料理はたまに家で作る。 日本食はほとんど食べられるが、お寿司は苦手。
D	女子	日本語教室の先生に日本料理の作り方を聞いて作る。 夫からも日本料理の作り方を教えてもらう。 フィリピン料理と日本料理どちらも作る。

＊　C さん、D さんは、親しい日本人から日本料理の作り方を勉強して家族に食べさせようと日本の生活様式に適応していこうと努力している。肉料理を好むフィリピン人には生魚を使う寿司は苦手なようである。

ク　来日時に困ったことと相談相手について

聞取り対象者	性別	来日時に困ったこと何でしたか？
A	女子	日本語で漢字に困った。 葬式など文化の違い。 車が左通行でびっくりした。
B	男子	日本語がわからなかったので、コミュニケーションが取れなかった。
C	女子	日本語で漢字に困った。 葬式など文化の違い。
D	女子	日本語がわからなかったので、コミュニケーションが取れなかった。 夫が交通事故に遭い、対処の仕方がわからなかった。 日本語がわからなかったので、病院の問診票に答えられなかった

聞取り対象者	性別	来日時に困った場合はどうしましたか？誰に助けてもらいましたか？
A	女子	結婚前は、ダンサーのリーダーに助けてもらった。 夫に助けてもらう
B	男子	母や友人に助けてもらう 家の中では母が通訳をしてくれた 分からない言葉は辞書を使って調べた。
C	女子	夫の母に聞く 夫、夫の友人や近所の人に助けてもらった
D	女子	夫に漢字の読み方やフリガナを教えてもらった。

＊　アルファベット表記のフィリピノ語を使用していた人たちにとって、漢字表記の日本語への戸惑いは非常に大きかったことが想像される。また、カトリック文化に慣れ親しんでいる彼女らにとって、仏教や神道を中心とする日本の冠婚葬祭への戸惑いも大きかったことが見て取れる。

その戸惑いを助けてくれたのは、日本人との関係が形成されていない来日時には、夫とその周辺の日本人であった。

ケ　現在、困っていることと相談相手について

聞取り対象者	性別	現在、困っていることは何ですか？
A	女子	日本語で漢字が読めないことで、工場の仕事がうまくいかない
B	男子	漢字も読めるようになったので、特にない
C	女子	漢字が読めないことで、生活が不便だ。仕事する場合も困っている。
D	女子	漢字が読めないので、ニュースが理解できないことがある 日本語検定を取りたい。

聞取り対象者	性別	困った場合はどうしましたか？現在は誰に助けてもらいますか？
A	女子	日本人の友人の池田さん等、日本語教室の先生。
B	男子	両親、日本人のいとこ、友人。
C	女子	夫の母と夫。
D	女子	日本語教室の先生。

＊　A さん、C さん、D さんともに漢字が苦手である。B さんは日本の小中高で教育を受けてきたので、漢字の面でも余り支障をきたさない。

彼らの相談相手であり生活支援者として、日本語教室のボランティアの先生方が大きな力を発揮している。

コ　生活の情報の得方と行政サービスについて

聞取り対象者	性別	生活に関する情報はどうやって入手しますか？
A	女子	テレビのニュースや情報番組から、新聞のチラシ、友人から。
B	男子	スマホ、インターネット、テレビから。
C	女子	夫から。
D	女子	フィリピン人の女性友達から。

聞取り対象者	性別	外国人にあれば良いと思われるサービスは何でしょうか？
A	女子	パスポートの登録がもっと簡単にできると良い。
B	男子	日本語の読み書きができなくて、仕事の採用が不利になる。 外国人でも採用してもらえる仕事が増えれば良い。
C	女子	漢字にもっとフリガナを振ってほしい。
D	女子	ローマ字書きの文章があったら嬉しい。

聞取り対象者	性別	子どもがもらってくる学校からのプリント類は読めますか？
A	女子	ひらがな、カタカナは読めるが、漢字が読めない。
C	女子	読めないので、夫に聞く
D	女子	読めないので、夫や同級生のお母さんに聞く。

＊　A さんと B さんは、テレビやインターネット、新聞等のマスメディアからの情報を得られる程度に日本の生活に適応しているが、C さん、D さんは、まだ日本の生活が 10 年余りなので、A さんや B さんレベルには達していない。従って、友人や夫など近しい人間を通じて生活の情報を得ている。また、この二人は小学生の子どもがいるため、学校からの連絡文書の漢字が読めないことに苦労している。

行政サービスの面では、市役所や学校の文書に、フリガナをうってもらいたいことや、ローマ字書きあれば読み易いとの意見があった。

サ　日本人から受けた差別について

聞取り対象者	性別	日本人や日本社会から差別を受けたことはありますか？
A	女子	ある。仕事の上で、壁を感じる。 フィリピン人だから･･･と感じることがある。 ビザや法律に関する不満はない。 日本の国籍を取りたい。日本のパスポートを持つと世界で信頼される。
B	男子	「外国人だから･･･」という言葉を聞くと、なめられていると思う。 ビザの規制を緩めてほしい。親戚が集まることが難しくなってきている。 外国人の選挙権を認めてほしい。
C	女子	ビザや法律に関する不満はない。
D	女子	ビザや法律に関する不満はない。

＊　A さん、B さんは日本語の微妙なニュアンス

も理解できるので、フィリピン人として軽く見られることを経験したのだろう。C さんや D さんは家庭で過ごす時間が多く、外で多くの日本人と接する機会が少ないので、差別を受けた経験があまりないようだ。

シ　今後の日本人との付き合い方について

聞取り対象者	性別	あなたは今、日本人とどのように付き合っていますか？
A	女子	家に招いたり、招かれたりする日本人の友人が何人かいる。
B	男子	日本人同士のように、親しく付き合っている人がいる。
C	女子	子どもの同級生の親とは仲良くなりたい。
D	女子	散歩をする時に挨拶をする程度ですが、多くの人と関わっていきたい。

聞取り対象者	性別	日本人とコミュニケーションを取る時に心がけていることはありますか？
A	女子	言葉遣いに気を付けている。 日本人に限らず、敬語の使い方が気になる。 相手が傷つく言葉は使わない。
B	男子	敬語を常に使うように心がけている。
C	女子	夫に教えてもらいながら、言葉を使う。
D	女子	言葉遣いに気を付けている。 言ってはいけない事と良い事を夫に教えてもらっている。

聞取り対象者	性別	近所や職場の日本人と今後どのように付き合いたいと思っていますか？
A	女子	優しく接したい。 大事にしたい。 たくさんの人と交流したい。
B	男子	人と出会うのが好きなので、もっと多くの人と付き合いたい。 挨拶を積極的に笑顔でするように心掛けている。
C	女子	子どもの同級生の親と仲良くしたい。
D	女子	散歩をする時に挨拶をする程度ですが、多くの人と関わっていきたい。 特に子どものことで聞きたいことがあれば聞けるので、子どもの同級生の親と仲良くなりたい

＊ C さんや D さんは、小学生の自分の子どもを介して同級生のお母さんと仲良くなりたいと強く願っている。それは、一つには、小学校からの連絡の漏れ落ちをなくしたいことが挙げられる。もう一つは、日本人の知り合いを増やしてコミュニティとの繋がりを強くしたいとの思いである。

ス　地域の活動や行事への参加について

聞取り対象者	性別	あなたは地域活動や行事に参加したことがありますか？
A	女子	子どもが小学校の頃は良く参加していた。 今はあまり参加しない。
B	男子	国際交流会などには積極的に参加するようにしている。 多くの人に出会える場があることは嬉しい。
D	女子	あります。 地域のお祭りには喜んで参加。

聞取り対象者	性別	地域活動や行事に参加しない理由は何ですか？
A	女子	日本語がわからないことがあるので、夫が居ない時は参加できない。 日本人とのコミュニケーションが取れるか心配。 工場の勤務が忙しく参加しにくい。
B	男子	休日に仕事やアルバイトが入った時には参加できない。

聞取り対象者	性別	どうすればもっと地域の行事に外国人が参加しやすくなると思いますか？
B	男子	外国人中心のイベント内容にしてほしい。日本人が多いため参加しにくい。 イベントの紹介や内容を、英語や外国語で知らせる。 外国人が楽しめる雰囲気づくりが必要。

聞取り対象者	性別	どんなイベントがあれば外国人は参加しやすいと思いますか？
A	女子	柏原ロータリークラブや丹波国際交流協会の実施しているフォーラム等 料理教室。
B	男子	日本人との交流が進む内容が良いと思う。 国際交流の場を増やしてほしい。 日本人だけでなく外国人も参加できる内容のイベントを企画してほしい。 毎回同じ団体が同じ場所でイベントをしている。違う所でしてほしい。

＊ A さん、B さんは日本での生活になれているので、多くの意見を持っている。日本人側にとって傾聴に値する意見として、行事の内容が外国人を中心に置いたものではなく主催者の日本人が満足するものであること　や、同じ団体や組織による、同じような内容の行事であり毎年変わり映えしないものである等である。

しかし、彼らは地域活動や行事を、多くの日本人や他の外国人と知り合える場として評価をしているし、もっと日本人と交流したいと強く望んでいる。

セ　今後の日本での生活について

聞取り対象者	性別	あなたは、このまま丹波市に住み続ける気はありますか？
A	女子	年を取り、夫と死別した場合は、暖かいフィリピンに帰るかもしれない。
B	男子	日本語もしゃべれるようになり、不便を感じなくなった。 日本の方が住みやすい。 日本も良いなと思うようになったので、日本に親戚を呼び寄せたい。
C	女子	兵庫県以外に住んだことがないのでわからない。 子どもがいるので、丹波市で暮らしていくだろう。
D	女子	日本の方が住みやすいので、このまま丹波市に住み続ける。 子どものためにも日本で暮らしたい。 フィリピンでは25歳までの人しか職がないので、日本の方が暮らしやすい。

＊ 気候的には、冬の寒さが厳しい丹波市での生活は温暖なフィリピンでの生活より、過ごしにくいものである。しかし、日本語での生活に慣れてくると働く機会の豊富さや教育機関、医療機関の充実などから日本での暮らしやすさを実感していく。特に子どもが小学校に行き始め、小学生の子どもを介して日本人の母親との関係性が形成されると日本での生活も安定したものになってくる。

４．　丹波市在住フィリピン人女性の地位向上へ向けた提言

⑴ 市在住フィリピン人女性が望んでいること（聞き取り 調査より）

① 日本語をもっとしっかりと勉強したい。特に漢字を読めるようになりたい。

・学校からの連絡文書を読めるようになりたい。

・自動車運転免許の試験に合格し、自動車での移動ができるようになりたい。丹波市は交通が不便なので、自動車が運転できるようになるとより便利な生活ができる。

② 日本人ともっとたくさん交流したい。

③ フィリピンの文化やフィリピン人の良さを日本人に分かってもらいたい。

④ カラオケスナックで働いているフィリピン女性のイメージを払拭したい。介護士の免許を取って、日本人から尊敬されるしっかりした定職に就きたい。

⑵ 在日フィリピン人女性の生活向上に向けての動き（⑴の思いを受けて）

①への対応策

丹波市内に外国人への日本語教室が増えてきている。

ア　柏原日本語教室「こんにちは」：柏原町

イ　ひかみ日本語教室：氷上町

ウ　春日日本語教室：春日町

上記３か所の外国人用の日本語教室か開設されている。アとイは、ボランティアによる運営である。ウは丹波市の外郭団体の丹波市国際交流協会の運営するもので、公的な力が外国人支援に入ってきたかと思われ、良い方向に向かっている。

②・③への対応策

ア　外国人演芸大会の実施。

2014 年（平成 26 年）６月に、柏原ロータリークラブ・丹波市国際交流協会・兵庫県立柏原高等学校インターアクトクラブの共催で「国際交流プロジェクト」の名称で実施した。　下の写真は、フィリピンの子供の遊び歌の「花」を踊っているところである。フィリピンの女性は、日本の高校生が「花」を知っていることが信じられない様子だったが、大はしゃぎで参加してくれた。







イ　フィリピン文化の紹介の機会として、「フィリピン料理を楽しもう」のテーマで、平成 27 年６月に、NPO 法人篠山国際理解センターの力添えを得てフィリピン人主婦二人を迎えて料理教室を柏原高校で行った。三田松聖高校・県立氷上西高校のインターアクト部員を招いてパンシット（フィリピン風ビーフン）とフルーツサラダを作って、フィリピン人の食生



活を知る機会を設けた。県立氷上西高校のフィリピン人高校生も参加してくれ、意義あるものになった。以下の写真は、この時の様子である。





右がパンシット（フィリピン風ビーフン）で、左がフルーツサラダ。

食事の後、日本に住む外国人の現状を改善すること考えるワークショップを行った。

話し合いの結果をまとめ、発表の準備をし、外国人に住みやすい丹波市にするための提言を行った。

④への対応策

ア　2004 年、「労働者派遣法」の改正で、在日外国人のヘルパーの派遣労働が可能になり、人材派遣会社が派遣人材として在日外国人の介護講習会にエネルギーを注ぐようになった。

その後、2008 年にはインドネシアと、2009 年にはフィリピンとの間の経済連携協定（ＥＰＡ）が結ばれ、フィリピン人の介護士・看護師の日本への受け入れが可能になった。厚生労働省によると、2025 年には、介護職だけで 100 万人が不足すると言われている。

興行ビザで来日し、日本人男性と結婚した在日フィリピン人女性の大きな雇用先と考えられる。

丹波市も他の地方自治体と同じく、少子高齢社会となっており、日本人で不足している介護職への丹波市在住フィリピン人女性の雇用拡大を進めてもらいたい。丹波市柏原町の特別養護老人ホームけやき苑では一人の在日フィリピン人女性が働いており、「明るい笑顔」と「家族を大事にする文化」を持つ彼女のキャラクターは職場で重宝がられている。丹波市は市在住のフィリピン人女性が介護職に就くためのホームヘルパー講習会を充実させていただきたい。

イ　アメリカ合衆国の植民地であったフィリピンの公用語はフィリピノ語と英語であり、英会話に堪能なフィリピン人は多い。日本における他のエスニック集団と比較した時に、英語能力はフィリピン人の重要な能力といえよ



う。2011 年より公立小学校での英語教育が始まり、英語教育の分野で在日フィリピン人の存在が注目されている。

しかし、興行労働で来日した中等学校卒業の比較的高学歴でない層である。そこで彼女らを英会話教員へ仕立てていくには、そのための研修プログラムが必要となる。

関東圏を中心に、在日フィリピン人女性を支援している日比家族センターが、英会話教員養成の研修プログラムを 2005 年に作り上げた。丹波市でも少数のフィリピン人女性が英会話教員を行っている。

できれば、この研修プログラムを導入し、希望のフィリピン人女性に提供し、英会話教員として活躍できるノウハウを身につけさせても良いのではないか。

彼女たちは、パブやスナックのエンターテナーとして働き、「夜の女性」のイメージを払拭したいといつも願っている。英会話教師への職業イメージの向上と、いつもお世話になりっぱなしの日本人に英会話教師として教える側に回れるとの位置の転換は彼女たちに大きな自尊感情を身に付けさせるだろう。

参考文献

藤原秀樹(2012):『「移民列島」ニッポン　多文化共生社会に生きる』　藤原書店.

樋口直人(2012):『日本のエスニック・ビジネス』　世界思想社.

駒井洋(1995):『講座外国人定住問題　第 2 巻　定住化する外国人』　明石書店.

丸紅広報部・丸山守彦(1990):『商社マンの目　フィリピンは、いま。－民主化と経済復興の道』　ダイヤモンド社.

宮本勝・寺田勇文(1994):『アジア読本　フィリピン』　河出書房新社.

大野拓司・寺田勇文(2001):『現代フィリピンを知るための 60 章』　明石書店.

（あだち　みゆう、あだち　ゆい、うえだ　なち、
おかばやし　みき、きどぐち　かざり、
たにがき　ななか、たにがき　りさこ、
たにかわ　あいこ、はら　かりん、
ひろせ　ともこ、ひらはら　あいこ、
まちば　さわ、やまぐち　さえこ、
よでん　まりな、
くぼ　てつなり、どい　けいこ、
兵庫県立柏原高等学校インターアクト部）